

## 葬儀に関する流れ

**命終**  
みょうじゆう  
お手次の住職に連絡。  
葬儀社に連絡。

**枕勤め**  
まくらづと  
生前法名を授与されていない  
場合はおかみそりを受ける。

**納棺**  
のうかん  
ご遺体を棺に納めます。

## 通夜

## 葬儀式（告別式）

**出棺**  
しゅつかん  
葬儀終了後、火葬場に出棺。

**還骨勤行**  
かんこつ ごんぎよう  
初七日法要を引き続き勤める  
ことがあります。

**中陰**  
ちゅういん  
四十九日（満中陰）までの間。  
七日ごとにお勤めいたします。

**満中陰**  
まんちゅういん  
四十九日目に勤める区切りの  
法要。

## 満中陰後の仏事

### 月忌・逮夜参り

毎月の命日または、逮夜日（命日の前日）に、お勤めをいたします。

### 百ヶ日法要

命終から百日目に勤める法要。

### 年忌法要

一周忌、三回忌、七回忌、十三回忌、十七回忌、二十五回忌（二十三・二十七回忌）、三十三回忌、五十回忌と区切りの年に勤める法要。

### 納骨

満中陰後、適時に墓地や本山（東本願寺・大谷祖廟）などにお骨を納めます。

**宗旨** 浄土真宗  
**宗派** 真宗大谷派  
**本尊** 尊形：阿弥陀如来立像  
名号：南無阿弥陀仏  
**本山** 真宗本廟（東本願寺）

### 真宗大谷派 お焼香作法

- ① ご本尊を仰ぎ見ます。  
\*この時は合掌をしません。
- ② 焼香卓の端に左手を添え、右手でお香をつまみます。
- ③ 香炉に入れます。（2回程度）  
\*お香をいただいたり、手首を返したりしません。
- ④ つまんだお香の乱れを整えます。
- ⑤ 合掌し、念仏を称えます。
- ⑥ 合掌を解き、頭礼します。



昨今は、社会情勢の変化にともなって、葬儀のあり方も変化しています。儀式の中心であるご本尊がだんだん見えにくくなったり、特に葬儀の荘厳においては葬儀社の主導により儀式に必要でないものが準備されることもあります。住職・葬儀社と共に相談しながら、大切な方々の命終に際しての儀式を勤めましょう。

## 葬儀を勤めるにあたって

真宗は南無阿弥陀仏の葬儀です



## ご遺体のお迎え

### 自宅でお迎えする場合



ご遺体はお内仏（仏壇）のある部屋に安置します。

お内仏（仏壇）は開扉し、平常のおかざりのまま、灯明を点し、仏花を青木に差し替えます。

### ホールでお迎えする場合

ご遺体とともに、ご本尊（「阿弥陀如来立像」絵像・「南無阿弥陀仏」六字名号）を安置します。

ご本尊には三具足（灯明・香炉・仏花）を用意します。

## 枕飾りについて

卓の上には、不断香を焚く土香炉を置きます。線香は立てずに折って横にします。他の物（巻線香・陰膳・お茶・お水など）は置きません。



枕勤めは、お内仏（仏壇）のご本尊に向いご遺族と一緒に勤めます。

\*火の扱いには、注意しましょう。

## 使用しない仏具・物品

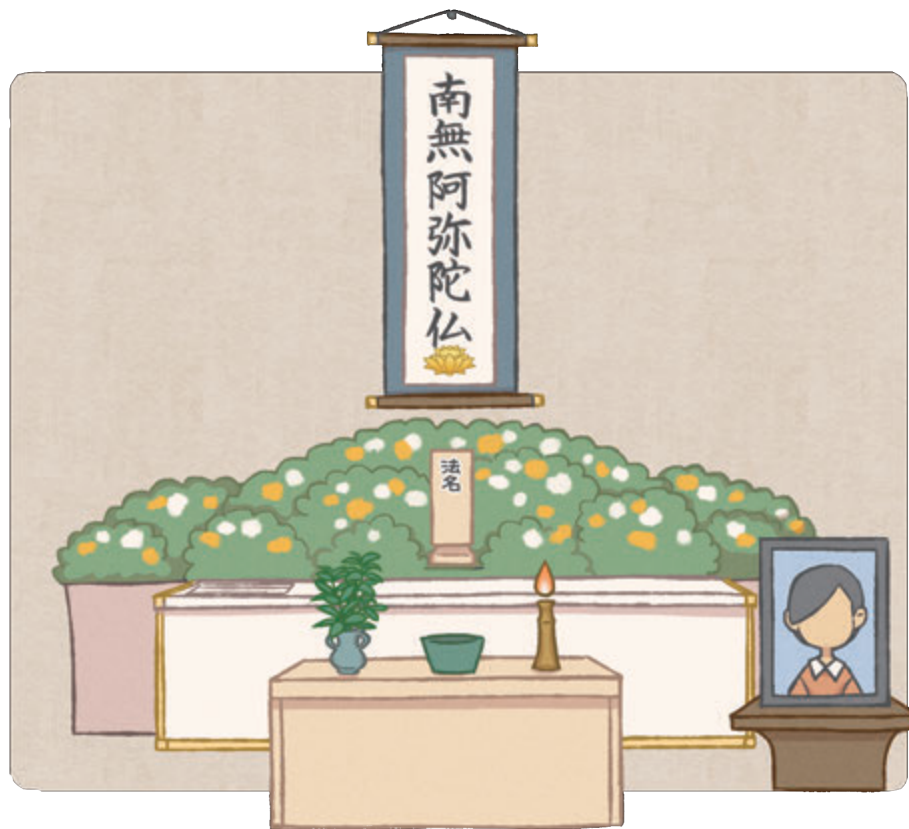
- ・まわり灯籠の飾りは不要です。
- ・祭壇・机の上にお茶・お水・陰膳などは置きません。
- ・ご遺体に、刃物や旅装束（脚絆・わらじ・杖・編み笠・六文銭）を使用しません。
- ・出棺時に、棺の中に現金を納めないようにしましょう。



# 真宗の葬儀は、ご本尊を中心に行います。

通夜・葬儀は厳粛な仏教儀式です。

葬儀社が提案する過度な演出は必要ありません。



## ご本尊・法名は、正面中心によく見えるように安置しましょう。

参詣には、念珠を忘れないようにしましょう。

肩衣をお持ちの方は着用しましょう。

## 迷信

迷信に惑わされないように勤めましょう。世間には葬儀に関する迷信が多く存在します。

### こんな迷信があります



\* 友引に葬儀を出すと、友を連れて行ってしまう。

\* 友引に葬儀を出すときは、身代わりの人形を棺に入れる。

\* 死者が戻ってこないように茶碗を割る。

\* 不浄なこととして「清め塩」を使う。

友引・仏滅をはじめとする六曜には客観的な根拠のない意味付けがされています。もとは中国から日本に伝わり1830年ごろ暦にはめられたのが始まりと言われています。

「死」は私たちに悲しみとともに不安や怖れをもたらします。「迷信」に惑わされ、「死」を不浄なこととして受けとめることで、いつの間にか大切な亡き人を見えなくしてしまうこともあります。「死」への不安を遠ざけたいという、私たちのこころを仏事を通して確かめてみたいものです。

## 南無阿弥陀仏の葬儀

阿弥陀仏は、「南無阿弥陀仏」の人を無条件に救いたいと願いを建てられた仏さまです。真宗では、亡き人ご自身が旅をしたり、三途の川を渡るための通行料を納めるなどの考え方はありません。ご遺体には、念珠・肩衣を掛けてお念仏のお姿で棺に納めます。